

# こんにちは婦人会「さくら」です

菊薫る霜月となりました。毎年のことですが月日の経つのは早いな～と感じるこの頃です。先日、大輪の菊の花を4鉢頂きました。玄関前にあるのですが、大輪の花火のようなピンクの花が、秋の終わりを香り高く飾っています。「露ながら 折りてかざさむ菊の花 老いせぬ秋の久しかるべき」古今和歌集より

小雪も過ぎ、そろそろ冬将軍の便りも届きそうです。ご自愛くださいね。

## ～婦人会・暮らしのエッセンス～

七五三といえば千歳飴ですが、いつ頃から七五三に用いられるようになったのか、気になりましたので調べてみました。元禄時代、浅草の飴売り七兵衛が寿命糖という名前で売り歩いたのが始まりだとか、豊臣の残党の平野甚九郎重正が江戸浅草で平野甚右衛門と名乗って始めた飴屋が作ったとか諸説粉々ですが、とにかく発祥は江戸浅草のようです。鶴亀や松竹梅の絵柄の入った袋に紅白の長い飴。子供の健やかな成長に祈りが込められていました。現代と違って甘い物がまだまだ貴重品であった江戸時代、子供たちにも、大人にも飴はうれしい贈り物だったそうです。実は、千歳飴は、直径15mm位、長さ1m以内と決められているそうです。



インターネットより引用



婦人会「さくら」  
平成26年11月24日  
第154号